池田氏事蹟

單

H 20
445

池田氏事蹟

東京帝國大學圖書印
B 23475

○戴曼公　寛文十二年歿

名笠、杭州仁和縣人。萬曆丙申二月十九日生。

承應二年至長崎。治痘、祖龍其延寶。

―○池田正直―信之

蒲冠範於十五世信室

瀬田氏

其裔ヲ正直トス

吉見氏臣　出雲ヨリ周防岩国ニ遷ル　吉川廣家ニ仕フ

錦橋ノ曾祖父、号嵩山、

改仕　周遊津浦ニ居ル

姓稱池田

―西明―錦橋

杏仙

京ち本院右衛門男、母錦江氏

早ク父ヲ失ヒ詮応ニ学ブ

―槙本坊詮応

○痘ヲ天行之診氣ノ所致トシ投薬陰偏倆ト云。

區斗藏書

高知堂製

高天漪　名玄岱、初名立泰、字子新、一字斗胆、又号
婺岑山、通称新右衛門、長崎人、祖寿覚、明人、父大
誦、為訳官、称深見氏、以高氏出渤海也、天漪幼学
于戴曼公、浅草観音寺、有稿無畏窓、享保七年
八月八日死、年七十四

玄岱
├ 但賢、字秋今
└ 倚傭、字宅熙

慶安二	一
万治二	十
寛文九	二十
延宝七	三十
元禄二	四十
元禄十二	五十
宝永六	六十
享保三	七十

頤斎　名玄啓、字双玉、天游男
明和六年乙丑月五日歿、年八十

頤参　玄俶男（乙）

元禄三　一（父四十一歳）
元禄十三　十
宝永六　二十
享保四　三十
享保十四　四十
元文四　五十
寛延二　六十
宝暦九　七十

高石行寺女
安永八年卒
後妻、寛政二年卒

池田錦橋
文化十三年卒　八十三
配佐井氏、実菅谷氏
嘉永元年九十
八十七

初玄俊
信卿 — 宗水
文政九年卒　六十歳
妻宇理氏、天保六年卒、三十六歳
七十四

京水　養子
天保七年十一月
書、五十一歳

公□
志鹿児島

春甫
晋
桐生人
村岡長右衛門弟
信二男
安政七年九十
隠居称
瑞翁

全安
棒軒女婿
後居本郷弓町、業大行
— 銓吉　実一世瑞長子
海保門、配伊沢氏梅、実全安女

瑞長 — 瑞長

太平治
文政元年春生
文久三年八月二十八日歿
年四十六

長次郎
海軍将校

女

善太郎 安政六年五月二十三日生
明治四十三年十二月十九日歿、年五十二、配某氏 明治元年生、現存五十三歳

信一 明治三十四年九月二十日生

長次郎 海軍将校

女

□

池田京水 天保七年歿五十一

全安 本郷元町三丁目五十一番地（壹岐坂上本郷通南角 門壹岐坂通向 今井店）住、三百五十坪

門人 小石川竹早町一 亡西尾良伯
日暮里善町五五 亡雲泉竜仙

全安明治十四年歿

アグリ 亡

健 明治十四年歿八歳

養嗣子
全安 初宗賢、田村氏、加賀国金澤人、宗左衛門子、安政五年十月十四日生、維宗先知正一女ハマ大正五年五十三歳、南品川利田(カバタ)新地七番地

妻 家女アグリ

養子 敏夫

養女 富士

池田錦橋 ○生年月日不詳 ○歿年月日不詳 (元文元丙辰生)

享保乙卯(二十年)五月二十五日生。

(寛保二年)八歳。父正明歿。

宝暦壬午(十二年)二十八歳。携母遊於藝廣島。治痘。

(安永二年)冬母歿。

安永(六年)丁酉冬。大阪痘行。入大阪。住西堀江隆平橋南。四十歳。(四十三歳)

寛政壬子(四年)秋。游于京師。居于東洞院。五十五歳。(五十八)

娶佐井氏。無子。

癸丑（五年）春。汲唐。

丙辰（八年）十二月家齋召。

丁巳（九年）入江戶。年六十四。（六十三）居駿河臺。

三月二百苞。講于講身館。

己未（十一年）二月除內班。

文化丙子（十三年）九月六日卒。八十三。（八十二）葬于

山嶺松寺。

嘗夢蟾蜍。後讀抱朴子。以為瑞。畫鄙其形。

庶腹一男二女。男曰善直。唐嫡。

○葉山愛公塔側有墓。門人己貴立之、（下総人、門人録載之）

佐井聞菴、竹中文輔所之。

江戸黄檗禅刹記　写本にて地水火風空の五冊より成り、序文には文政十年丁亥十一月と記しあり。

其の春雲寺の部に云

春雲寺は豊島郡上落合村に在、黄龍山と号す。

又その中に云

井上蘭臺墓　備前藩儒臣井上嘉膳通煕　蘭臺ハその号也。

銘に蘭臺先生の墓。又位牌ハ休山自仙居士寶暦十一年辛巳十一月二十七日とあり。

因ハ、住の旅所とあり

（因ニ云ふ。井上四明の碑は全文を載せたり。）

嶺松寺の部ニ云

池田瑞仙墓　容殿の西ニ在。南向。瑞仙の位牌ハ容殿の中ニ在。戒号養真院殿元活瑞仙大居士。銘ニ錦橋先生墓表

池田錦橋先生家　召。自京師至焉。与余同僚于内班者十年矣。是以能詳悉其為人。其始来江都也。住市中。後厭其煩囂。卜居駿河臺。屋後築小樓。樓下陳酒樽。樓上貯痘疹書。暇則讀書。倦則浮一

○保云。豎下疑脱散（了）字。（原文無）

太白以遣興。常謂人曰。有酒盈樽。有書挿架則足矣。其他無所求。是可以想其洒脱矣。瀧江至公及余与先生交最深。時訪其居。飲樓上。及酒酣耳熱也。慷慨激烈。扼腕抱膝。三人各言其志。而莫逆于心也。樂無樂焉。今幾年乎先生逝矣。至公善病。酒量太減。而余乃栖々乎風塵中。東奔西突。殆無寧日。視諸往時有暇有友。以盤杯酒之歡。其雅俗如何。嗚呼人生豎（又）無常。交遊日就零落。則余亦将老矣。今春三月。其養子直卿乞余文。以表其墓焉。余知先生之深。其請不可得而辞也。文曰。先生諱獨

美。字善卿。別号瑞仙。自号錦橋。姓池田氏。周防岩
國人也。曾祖正直。住岩國通津浦。從帰化人戴曼
公。授痘疹秘訣。世々以為家學。祖信之。父正明。共
研窮其術。先生八歳喪父。依母而長焉。從其叔父
槙本坊詮應。學句讀。且受其家學。凡十有二年。而
詮應没。蓋詮應學之正明。而傳之先生也。先生又
從吉川氏侍醫桑原玄仲。學經方家言。一旦慨然
曰。与泛學經方。以分其心志。不如留意一科。以名
後世也。專讀痘書。折衷曼公之秘訣。大有所開悟。
而岩國之俗。有患痘者。舁送之山間僻地。以避其

十行廿字

傳染。故患者絶罕。而不能試其術。於是乎漫遊藝
播攝三州。以療痘疹。其在攝也最久。寓于浪華西
堀江。每診患者。曰順。曰險。曰逆。曰其日變症。曰其
日死。其言百發百中。攝人々始而驚。中而疑。終而
信。名声大振。寛政壬子秋。薄遊京師。愛其山水佳
麗幽邃。居于東洞院。會痘疹流行。乞理者門外為
市。先生刀圭之暇。為諸生請益者。講痘科鍵。傍及
曼公秘訣。弟子相會者數十人。痘科鍵之價為之
貴矣。名譽益隆。丁巳正月。被　召到江都。賜世禄
二百包。且命講痘書于柳原醫學。戊午二月。遷内

班。賜予頗多。文化丙子九月六日病没。享年八十有三。十一月六日。葬于武州小梅村嶺松寺戴曼公表石之側。先生有子善直。才敏而好學。多病而不能継其業。以其門人直卿為嗣。女子二人。皆早卒。著有痘科辨要十巻。痘疹戒草三巻。痘科鍵刪正六巻。治験録二巻。遺稿五巻。而辨要戒草二種鐫刻于世云。文政戊寅仲夏。江都侍醫法眼杉本良仲温撰。孝子池田晉直卿謹書。併建之。

稀痘神碑　池田氏の墓の側に在。銘に稀痘神

痘疹科教諭池田獨美瑞仙建。従四位下源朝臣忠衡子告書。

帰化人戴曼公碑　稀痘神の碑に並ぶ。銘に先生戴笠曼公獨立表

盟誓文の碑　戴曼公の碑に並ぶ。銘に醫學痘疹科教諭池田瑞仙氏埋藏

No.　　　　年　月　日

謹啓先日は御見舞多々下され恭く拝受仕り候一両日前
より俄に寒く相成り昨日より袷にても一寸寒い位にて難き申し候
今日月末休館天気も殊に快晴なれば故十時より青山に
池田錦橋の墓を探り居し碑文にても有之候はば手拓の上御送
附申上げんと存じ出かけ申し寺務所にて墓所を探ねけれ姓名
前を聞かれ名刺を出し候えば奥より僧侶と俗人と二人出来り
僧は倉光治文と申す学者にて名前も識りて承知の人なれば俗の
方は錦橋の事につき兄上に通信致せし吉永卯三郎氏なれば
同より来りて申し奇遇を悦び両氏の案内にて池田氏の墓
を探り申し候然し墓銘は無之墓の形式は大略左の通りにて有
之は（一形は普通ノ 棹石 二は台は二重）棹石高二尺七寸横一尺（マキ迄）

東京三越製

弟子　進藤玄之
　　　佐井聞菴
　　　竹中文輔　奉祀

(正面)　錦橋池田先生墓

(向テ右側)　文化十三年丙子九月六日

墓の前ニ石の水盤(巾一尺二寸高七寸曲尺)有之正面ニ「錦橋先
生墓前盥」と楷書し左側面ニ

玄之猶子
南都　仲元益
拝

と刻し有之候。寺務所ニ帰りて又暫く話し吉川氏ハ江戸黄檗
禅刹記ハ帝国図書館本は著者自筆本にて甚重書故ニ
話しあり自分のも是れを写したるもの御入用ならば何時ニても提

No.　　　　年　月　日

供すると申されば尚御心付きの点ご通告を惜まれざる様希望して
今後貴方ご帰宅後は禅剣訳する錦橋の碑銘全文摘記し
ある様申し居られ候。
碑銘無之きは残念の様なりしが錦橋の墓の様子を知りたいと
御託し申されしにつき実地見聞の処を御報告申上ぐるは悦ば
しきことと存じ居り候　敬具

九月三十日

洵拝

兄上様

谷中墓地管理者詰所

茶屋金子

養真院殿元治瑞仙大居士　錦橋

芳松院殿縁峰貞操大姉　錦橋妻菱谷氏

善勝院殿霧渓瑞翁大居士　霧渓

秋林　浄桂　大姉　同妾

養壽院殿本如瑞仙　大居士　直温

保壽院殿浄如貞松　大姉　同妻啓

側面

二代　二男梅岳貞英童子　霧濱二男浩之助

明治三十年三月改葬　池田鑒三郎建之

○治痘法を戴曼公に受けし池田瑞仙（名獨美、字善卿、号錦橋）は享保乙丑五月二十二日生、文化丙子九月六日卒、享年八十二、九月十六日、「葬于武州小梅村嶺松寺、戴曼公表石之側」、「妻某一男二女、男曰善直、多病不能継業、二女皆夭」弟子晋を養ひて子とす。（晋所撰池田氏行状）

（池田正直の曾孫）

嶺松寺は取拂はれ、檀家は羅漢寺に移り、

羅漢寺之目黒に移る。無縁の石塔は羅漢寺附属共同墓地（本所五ツ目辺）に遷す。池田氏の墓は福岡に改葬すと聞く。石はいかになりしにか。（仏福寺立派）

（字は柔行、又直卿、霧溪と号す。）

晋ハ~~池田京水に従ふ者~~也。上毛の人。年二十にして錦於ニ学ぶ。二世瑞仙なり。

○池田瑞英、名ハ淵、字ハ河澄、号ハ京水、瑞仙ノ子ナリ。性放縦不羈ニシテ人ニ容レラレズ、遂ニ多病ヲ以テ嗣ヲ廃セラル。

右ハ嶺梅寺ノ石碑ニアリシヲ當時謄写シ

四五十四ルナリ

京水ノ曲碑ハ

痘科辨要

痘科鍵合要

痘科鍵私衡

護痘要法

（羅江后純記述）

一　一　一

津軽ノ藩士ニ平井義齋（通称未詳）トイフ人アリ高頤齋（玄岱）ニ書ヲ學ブ其孫
東堂（修理）モ書ヲ善クシ且説文會ノ一員ナリサテ平井ノ家ニ戴曼公ノ
持念佛藥師銅像（佛ハ天竺ト）六方印（六面遊印）ト所藏セリ東堂ハ留守居役
ヲ勤メ費用多ク一時此二物ヲ某氏ニ預ケ金ノ融通セシガ期限ヲ過セシ
タメ某氏ノ賣却シタリ佛像ハ池田隨長ノ手ニ入ル其後平井ヨリ値ヒ十
金ニ償フベケレバ返サレム事ヲ池田ニ申入レシガ池田ハ痘瘡ノ治療ハ獨立師
ヨリ傳ハル我家ハ痘瘡科ヲ世業トスレバ此藥師佛ハ家ノ守護神ナリ
トテ返サズ瑞長死シテ其ノ弟金安ニ傳ハリ明治トナリ藥師像ハ奥田賢
丹ニ帰シ六方印ハ中井敬所ノ所有トナル　敬所直話
因ミニ平井修理ハ弘前ニ帰住シ明治五年九月殁ス六十四歳

小梅ノ嶺松寺ニ戴曼公ノ墓アリキ明治五年ノ秋余ハ此寺ニ一週日許
寓セシ事アリ卵塔中ニ此墓アルヲ不審ニ思ヒ居タリ 竿石丸形ニシテ頂ニ石蓋アリ
其傍ニ池田ノ墓石アリシヤ心モツカザリキ弘福寺住職ノ談ニ嶺松寺
ハ池田ノ開基ナリシヤウニ記憶スト此池田ハ徳川幕府醫員ナリヤ寛政重修譜ニ
池田玄達 寛永五年十二月醫術ニ長セルニヨリ常憲院殿ニ拜謁
ス正徳三年十二月奥醫師廩米二百俵享保元年十二月奥醫
師十七年十月死トアリ此人歟カ
獨立ハ寛文十二年示寂ナレバ玄達ハ其教ヲ受ケシモ 年代
相ちかへり

○右大槻如電筆記中ヨリ抄出ス

新編武蔵風土記稿
葛飾郡巻三、小梅村、 抄録
嶺松寺、禅宗黄檗派牛島弘福寺末、快巖山ト號ス本尊
千手観音ナリ開山ハ羅漢寺中興第二世ノ僧寶洲ナリ 享保四年寂 開基ハ
旗下ノ士北條新藏氏ナリ寶暦六年二月二十二日死スト云

○

本所五ツ目ノ五百羅漢寺、明治十七年頃、南葛飾下水ニ移轉シ
小梅ノ嶺松寺、明治廿七年頃羅漢寺ヘ合併シ、八九年ノ前羅
漢寺ハ再ビ目黒ヘ移轉ス不動堂前ナルモノナリ池田氏ノ墓
ハ知ラズ嶺松寺ノ過去帳ハ羅漢寺ニ今ニ保存セラレシニアルヘシ

養真院殿元活瑞仙大居士

芳松院殿繚峰貞操大姉

士　文化十三丙子九月六日

姉　嘉永元戊申十二月六日

石位牌

金安号蘭庭